

中野 友人

現代の日本人は、自衛の意識が低いといわれている。

戦後、自国の防衛を他国に任せ、経済発展を優先してきたことが、その原因であると考えられる。しかし、本当に原因はそれだけなのだろうか。私は、現代日本人の自衛の意識が低い理由として、家族関係・人間関係が希薄になっっているということも挙げられると思う。

現代日本人には、命を懸けて守るべき家族・人間が昔と比べて少ない。だから、自分さえよければよいという考えがびこっており、皆が平和に暮らせる国土を守るということに意識が回らないのである。

今回の研修においても、特攻隊の若者達が命を捨てて戦うことが出来た理由は、家族・市民を守るためであったということをかがい知ることができた。

例えば雄翔館では、家族を守る・市民の犠牲を減らす、といった理由で若者が特攻を行ったということが、遺書を通じて紹介された。

また、豫科練平和記念館の戸張氏の話では、若者たちは家族・祖国の平和を守るために特攻に行ったのではないかと推測していた。現代の若者も、特攻隊の若者と変わらない。もし、守

るべき家族や仲間がいて、彼らが危険にさらされたとしたら、命を懸けて彼らを守ろうとするはずである。

では、守るべきものを失った現代日本人の自衛の意識を高めることは、不可能なのだろうか。少子高齢化・核家族化・地域コミュニティの崩壊等、人間関係の希薄化がより進行していくことが予想される我が国においては、守るべき者を再得して自衛の意識を高めることは、困難に思える。

だが私は、現代日本人の自衛の意識を高めることは、不可能ではないと思う。近年は情報化社会であり、インターネット等を通じた人間関係は、以前より強くなっている。その人間関係が従来の家族関係・人間関係の代わりとなり、日本人にとって守るべき者となれば、現代日本人の自衛の意識は高まるはずである。もっとも、インターネット等の個人的な人間関係が、従来の家族関係・人間関係の代わりになるとは思えない。顔も見たこともない個人を守るために戦おうと思う人は少ないだろう。大切なのは、インターネット等を駆使して、個人ではなく日本人全体の関係を密にしていくことである。個人が日本人全体の平和を願い、守りたいと思うようになれば、日本人の自衛の意識は高まると思われる。

自衛隊は、日本人の自衛意識を高めるため、日本人全体の関係を密にするような情報を、インターネット等を通じて積極的に発信していく必要がある。

る。

例えば、従来あまり知られてこなかった豫科練の存在や、特攻隊員たちの平和への願いを広報し、日本を守るということが日本人の共通認識となるようにしていかねければならない。

そのようにしてはじめて、日本人全体で一致団結して平和を守ることができるのである。